# pal
place amie liberte

no.535

GAKUEN COMMUNICATION PAPER PAL

学園新聞［パル］

2018.10.26.Fri


pick-up contents on this issue


P1 特集
「保護者懇談会開催」

P2 Campus Archive
キャンパス・アーカイブ　2018年3月～2018年10月までの出来事

P3 Way to go!

P4 University & College News　学部・学科ニュース

P5 平成29年度事業概要報告

P6 My Life My Story


# 平成30年度 北翔大学・北翔大学短期大学部 保護者懇談会開催

平成30年度　北翔大学・北翔大学短期大学部保護者懇談会を開催致しました。

保護者の皆様に、本学の教育運営状況、学生の修学状況、就職状況及び学生生活全般についてご説明をさせていただき、保護者との相互理解を深めることを目的として、毎年、開催しています。

本年度は、9月2日(日)に本学会場で実施致しました。また、9月8日(土)に旭川、北見、帯広、函館で実施を予定しておりました地方会場の開催は、9月6日(木)の北海道胆振東部地震の影響により中止とさせていただきました。ご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げますとともに、被災された皆様に対し心からお見舞い申し上げます。次年度以降は通常通り地方会場での開催を予定しております。

## 全体説明

全体説明では、本学が目指す大学像である「教育重点大学」「地域貢献大学」の観点から、左記を説明致しました。

### ―教育重点大学―

**【大学】**
5つの教育フレームによる教育の質保証

- 学びにそなえる入学前教育
- 基礎をととのえる基礎・教養科目
- 専門をふかめる専門科目
- 自分をひろげる発展科目
- 将来へつなげる就業力養成科目

**【短期大学部】**
専門性を集中して磨く2学科5コース制

**【学びを深める】**
ステップアップを目指す学生に対して、修士課程の大学院や大学3年次への編入学制度を整え、新たなチャレンジへの道を準備しています。

### ―地域貢献大学―

**【地域連携活動】**
赤平市、寿都町、月形町、奈井江町等と連携した地域貢献活動、各種ボランティア活動、学校、福祉施設等の行事補助などに取り組んでいます。

### ―学生生活支援―

学生食堂で展開されている食生活改善運動や、外部コーチ・講習会などの部活動の支援、保健センター・学生相談室・特別サポートルームによる健康面や対人関係等の悩み相談の支援、授業に不安を感じている学生に対して、専属の指導者が行う、学習サポート教室などがあります。

### ―教職支援―

教職センターでは教員をめざす学生への支援体制として、○教職科目の修得、教育実習などを経て、教育職員免許状の申請・取得となる流れについて、○「教員採用選考検査対策講座」（願書等の記入、教職教養等に関する一次検査対策、面接等に関する二次検査対策）の実施状況、○教員採用選考検査の状況や倍率、本学の合格者数などについて説明しました。

なお、本学では卒業後も在学時と同様に講座受講が可能であるなど、手厚いフォローを行っており、合格まで、「教員になるという強い意識をもって学習に励むこと」の大切さを伝えさせていただきました。

### ―キャリア支援―

キャリア支援センターより大卒求人倍率や平成29年度大学・短大卒業者の就職率などから現在の就職状況を説明しました。続いて、本学の就職支援として、毎年4月学年毎に就職ガイダンスを実施していること、1年次から3年次まで必修で行うキャリア科目の中で社会人基礎力を養成していること、インターンシップを強化していること、履歴書・エントリーシートの書き方や面接・グループディスカッションなどの就職活動対策セミナーを実施していることについて説明しました。

また、保護者の皆さんにお願いしたいこととして、

・「とにかく就職しなきゃ」の先にあるものは早期退職

・適職探しを長期化させるものは①親の価値観、②自己分析の不足、③企業研究・職業研究の不足、④自信の不足だが、不得意を得意にする醍醐味を体感させることも必要。

・子どもの自立を止めないよう、言い分を聞いたうえで、無職になることや早期離職がもたらす不利益を子ども自身に考えさせること。

・子どもから就職活動の中断や断念、離職についての相談を受けたら親にとっても人生とは仕事とは何かを考える機会であり、親子が人生・仕事のことを率直に話し合うことが子どもの自立を促す機会になること。

就職活動は学生自身が努力することだが、親の支えも必要である。誰かに相談することで「自分で答えを見つけ出す」こともあること、キャリア支援センターを積極的に活用していただきたいことを説明しました。

## 個人面談

修学状況、学生生活、進路・就職活動などについて、担当教員と個別に面談を行いました。日頃抱えている疑問や問題点等について相談されている方も多く、どのブースでも保護者の皆様が熱心に相談や質問をされていました。

## 保護者の声

参加した保護者の皆様にアンケートにご協力いただきました。

・先生が親身になって、進路についてアドバイスしてくれるので大変安心しました。来てよかったです。ありがとうございました。

・初めて参加させていただきました。先生方が子どもをよく見てくれていることがわかり、ありがたいと思いました。今後ともよろしくお願いします。

## 建学の精神

**（今日的定義）**
**「常に変化する社会に向かって真摯にかつ創造的に対応できる人材の輩出を目指し、より高い専門性と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」**

本学園の建学の精神「女性の社会的地域の向上を目指し、女性に相応しい職業的技能と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」は、1939年(昭和14年)、本学園の母体となった北海ドレスメーカー女学園創立時に定められたものです。

この建学の精神は、自立の手段が限られ、狭い社会に閉じこめられていた女性に職業的技能と教養を身につけることを目指すという、当時としては、「時代を先取りした精神」をもっていました。その後、社会は大きく変わり、今日、高等教育機関には、男女を問わず一人ひとりが人間として幅広い教養を身につけ、自立的な社会人を育成していくことが求められています。

こうした経緯を踏まえ、「建学の精神」のもつ本旨を今日的定義に敷衍し、表記のとおり定義します。

## 教育理念

**「愛と和と英知」**

学校法人浅井学園は、人間関係の基本として大切な「愛」と「和」を教育理念に掲げて70年の歴史を刻んでまいりました。近年、大学としてさらに「英知」を加え、確かな知識に裏打ちされた教育の拠点を目指しています。

**愛** 人間の存在とその価値を認め尊敬して行きたいと願う温かな心情、誠実、真心。地球規模での人類の発展と平和を願い、共生社会に生きる人間の育成。

**和** 互いの違いを理解したうえで取り結ばれる平和を希求する心、友情、協調性。他者への深い理解と柔軟で寛容な精神の育成。

**英知** 深遠な道理を探求し、深い知性、実践的な知恵。真の実在や心理を捉えることのできる認識力・実践力の育成。


発行人：青木次郎　発行所：学校法人浅井学園　発行日：2018年10月26日｜発行部数：3,500部｜お問い合わせ先：学校法人浅井学園　北翔大学　総務部　総務課　〒069-8511　北海道江別市文京台23番地　tel.011-386-8011（代）fax.011-387-1542

## 平成30年度 入学式を執り行いました

4月4日(水)、北翔大学大学院・北翔大学・北翔大学短期大学部の入学式が、北翔大学浅井記念館にて執り行われ、大学院12名、大学456名、短期大学部141名、編入学12名の計621名が、期待に胸をふくらませて本学の門をくぐりました。

山谷敬三郎学長は式辞にて、アメリカの教育界で注目されている「やり抜く力（grit）」や、哲学者ニーチェの「達人たちは努力によって偉業を成し遂げ、世間でいう天才になったのだ」という言葉を紹介し、努力を惜しまずに自分の可能性を発見してほしいと新入生にエールを送りました。

**1年次入学生**

| | | |
|---|---|---|
| 大学院 | | 12名 |
| 生涯スポーツ学部 | スポーツ教育学科 | 220名 |
| | 健康福祉学科 | 42名 |
| 教育文化学部 | 教育学科 | 123名 |
| | 芸術学科 | 30名 |
| | 心理カウンセリング学科 | 41名 |
| 短期大学部 | ライフデザイン学科 | 21名 |
| | こども学科 | 120名 |

**編入学生**

| | |
|---|---|
| 生涯スポーツ学部 | 4名 |
| 教育文化学部 | 8名 |

食生活改善運動・春

## 「1COIN 朝食週間」好評の内に終了

江別地区の4大学が毎年春・秋に実施している「食生活改善運動（1COIN朝食週間）」。学生の健康的な暮らしを支えるための活動の一環として、朝食を食べる習慣を身につけてもらうために企画され、毎回好評を得ています。今春は5月23日（水）～25日（金）の3日間、PAL4階の食堂にて、毎朝150食を100円で提供しました。

「2018春の食生活改善運動：朝食週間」が無事終了いたしました。早朝から準備にご協力を頂きました食堂スタッフの皆様、どうもありがとうございました。

## 山本敬三教授が日本バイオメカニクス学会賞を受賞しました。

9月4日(火)～6日(木)に日本体育大学で開催された第25回日本バイオメカニクス学会において、山本敬三教授(生涯スポーツ学部スポーツ教育学科)が「JSB学会賞」を受賞しました。本賞は、2016～2017年の2年間に発行された学術論文および学術的著書の中で審査され、最も評価の高かったものに与えられます。これまで日本を代表するスポーツバイオメカニクス研究者に授与されてきました。

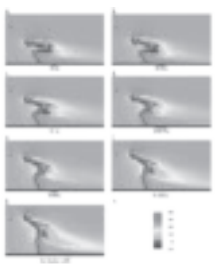
受賞した論文はタイトルが「Effect of posture on the aerodynamic characteristics duringtake-off in ski jumping（スキージャンプ踏切中の姿勢変化が空力特性に及ぼす効果）」であり、Journal of Biomechanics（ジャーナル・オブ・バイオメカニクス）という当該分野で権威ある国際学術誌に2016年に掲載されました。この論文の中で、スキージャンプの踏切動作中の身体周辺の気流状態や空力特性を明らかにし、体幹や腕の姿勢が大きく影響を及ぼすことを示しました。

目に見えない空気の流れや力を可視化し、パフォーマンスに影響を及ぼす力学的要素を可視化・数値化することは、実際の指導現場にも有益な情報となり、より効率の良い指導の材料になります。

この論文で明らかにされた物理現象は世界初であり、学術的価値のみならず、選手や指導者にも価値のある情報です。

※バイオメカニクスとは運動力学と訳され、数学や物理学を使って動作分析する学問分野です。ビデオを使った動作分析や発揮した力の計測、空気や水の力、筋活動などを分析する学問です。

※日本バイオメカニクス学会には、スポーツ動作を中心に人間の動きを分析する研究者が所属しています。



左：(右)山本敬三教授、(左)日本バイオメカニクス学会会長の深代千之先生(東京大学・教授)

右：論文で使われた図（一部）、スキージャンパーの踏切動作中の気流速度の変化を可視化したもの

## 東日本大震災ボランティアツアーに参加しました

8月2日(木)～8日(水)、学生14名が東日本大震災ボランティアツアーに参加。苫小牧から八戸までフェリーに乗船し、JRで岩手県釜石市へ。現地では復興状況を視察し、震災体験者から当時の様子を伺う機会もありました。

また、伝統のあるお祭り「釜石よいさ」の運営をサポートしたほか、本学主催による「くりりん祭」も開催。子どもたちとたくさん遊び、ジンギスカンなどを振る舞いました。最終日には避難道などの草刈り、全体の振り返りを行って帰路へ。学生たちはさまざまな体験を通して、多くのことを学んだと感想を述べていました。

スポーツ教育学科OB伊藤佑樹さん

## 世界競歩チーム選手権で日本代表選出！団体金メダルを獲得！

5月5日(土)、6日(日)に中国・太倉で開催された第28回世界競歩チーム選手権大会におけるシニア50㎞競歩の日本代表に、陸上競技部OBの伊藤佑樹さん（短期大学部人間総合学科平成24年度卒、生涯スポーツ学部スポーツ教育学科平成26年度卒、大学院生涯スポーツ学研究科平成28年度修了）が選出されました。結果は団体優勝！金メダルを獲得しました！

在学時、伊藤さんは日本選手権などでの入賞をはじめ、近年の世界陸上競技選手権大会や平成28年リオデジャネイロオリンピックの標準記録も突破しておりましたが、日本は世界でメダルを取るほどレベルが高い種目であるため、日本代表には惜しくも届きませんでした。

大学院の修了後、2020年東京オリンピックの出場を目指すため「株式会社サーベイリサーチセンター」に採用され、年々着実に力をつけ、今回日本代表として団体金メダルを獲得することができました。

今後も国際大会での益々の活躍を期待しています。

同窓会ニュース

## 後輩を想う「パイセンめし」朝食で元気に

今年度新たな取り組み「パイセンめし」と称し、学生に100円朝食を提供するというものです。かねてから江別4大学共通で年2回100円朝食を行って来ましたが、常態化される事が重要と実施に至りました。同窓会の取り組みとしては全国的にみても特異な事例であると自負しています。

現役学生を支援する事を柱としている本会にとって当然と言えば当然、朝食の大切さを知ってもらい元気で明るくたくましく学生生活を送って欲しいと願うものです。

この企画を実現するための過程で一番嬉しかったのは毎年開かれている代議員会に提案をした時に満場一致で盛り上がった事です。出席者が後輩のためになるならという想いを共有出来た瞬間でした。「あったかいね～」淑萃会が目指す方向が確立しつつあると実感しました。ありがとうございました。

今後は回毎にテーマを作り、よりインパクトのあるものにしていこうと思います。

6月はスポーツ教育学部黒田先生監修の〝スポーツ選手のためのパフォーマンスアップめし〟7月は〝女子力アップめし〟、を提供しました。

The library now 図書館は

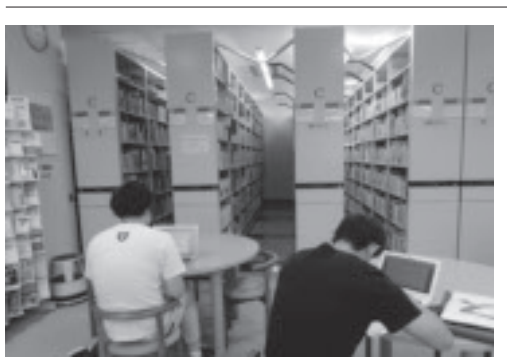
## 大型書店みたいに選びたい スポーツ分野ちょっとリニューアル

7月、図書館1階Cブロックでスポーツ分野の図書を並べ替えました。スポーツ医学、アスレチック・トレーニングなど約3000冊の分類を見直し、たとえば「テーピング」に関する約60冊を1ヶ所に集めました。一度検索して書架に入れば、同じ棚で同じキーワードの本をまとめて手に取れる、大型書店のような使いやすさを目指す取り組みです。

Cブロック前のグループ学習ゾーンは、レポート作成に取り組む学生たちで連日ほぼ満席でした。パソコンと書架とを往復する学生たちの邪魔にならないよう、職員たちは忍び足で本を出し入れし、毎日少しずつ作業を進めました。

ここ数年、スポーツ理論に関するレポートを図書館の資料を使って作成する学生が増えました。解剖学、生理学など医学の専門書もよく利用されています。

図書館も学生の学習意欲に負けないよう日々成長しています。



アルティメット部

# 世界ジュニアアルティメット選手権大会日本代表に選出!!

8月16日(木)に、カナダで開催された19歳以下対象の世界ジュニアアルティメット選手権大会の日本代表に竹島悠飛さん（スポーツ教育学科2年）が選出されました。

アルティメットはフライングディスクをボールに見立ててバスケットボールとアメリカンフットボールの要素を取り入れた7人制の競技です。

今回は日本代表男子28人の1人。道内には本学を含め8大学にアルティメット部がありますが、道内の大学男子選手では唯一選出されました。

8月1日(水)に本学で行われた決意表明式では、「日本代表としてチームみんなでいい色のメダルを持って帰り、競技拡大に弾みをつけたい」と意気込みを語りました。

結果は第12位となりましたが、1週間に渡り、日本代表チームを応援いただきありがとうございました。

**アルティメット U-20メン部門** 最終順位 第12位

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8/18 | 日本代表の試合はありません | | | |
| 8/19 | 予選L | 9:00 | Japan 12 – 15 | Australia |
| | 予選L | 13:00 | Japan 15 – 12 | Finland |
| 8/20 | 予選L | 9:00 | Japan 5 – 15 | United States of America |
| | 予選L | 13:00 | Japan 15 – 4 | HongKong, China |
| 8/21 | 予選L | 9:00 | Japan 10 – 15 | Great Britain |
| 8/22 | 予選L | 13:00 | Japan 11 – 8 | Sweden |
| | 予選L | 17:00 | Japan 15 – 5 | Dominican Republic |
| 8/23 | 予選L | 11:00 | Japan 13 – 15 | New Zealand |
| | 順位決定T | 15:00 | Japan 12 – 13 | Germany |
| 8/24 | 11位決定戦 | 13:00 | Japan 9 – 14 | Colombia |
| 8/25 | - | | | |

エアロビック部

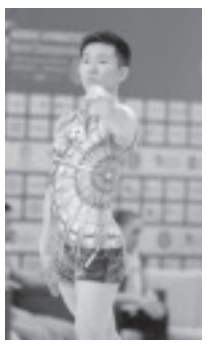
# FIG世界エアロビック選手権大会に日本代表として出場！

第15回世界エアロビック選手権大会が6月2日(土)～4日(月)にポルトガルのギマランイスで開催され、本学からはエアロビック部の是枝亮さん（大学院生涯スポーツ学研究科2年）が日本代表として出場しました。

男子シングル部門に出場し、結果は第10位となりました。

エアロビックの世界選手権大会は、FIG(国際体操連盟)主催で2年に1度の隔年開催をしている世界最高峰の大会です。残念ながら、8名で競われる決勝には惜しくも進出することはできませんでしたが、たくさんの応援を力にして世界選手権大会という大きな場で多くの方の心に響く演技を行うことができたと感じています。

皆様のご支援に心より感謝申し上げます。



パセオ学生応援企画

# 「paseo creators camp」に参加！

パセオ学生応援企画「paseo creators camp」が6月30日(土)、7月1日(日)の2日間パセオ地下1階テルミヌス広場で開かれました。ファッションショーのほか、衣装作品展示とワークショップ「ハーバリウム」を行いました。

ファッションショーは、卒業生でデザイナーとして活躍している佐々木亜梨奈さん（生涯学習システム学部芸術メディア学科平成27年度卒業）の作品、ブランド名「heavy&cotton」から10点と昨年12月、集大成としてのファッションショーで発表した佐野くるみさん（教育文化学部芸術学科平成30年度卒業）の作品「Lolli pop」5点を紹介しました。また、ワークショップ「ハーバリウム」は、2日間で150名以上の多くの方々に来ていただきました。「きれい！」「嬉しい！」など、みなさん笑顔で満足されたようです。

女子バレーボール部

# 第69回菱村杯北海道大学バレーボール選手権大会 優勝!!

6月8日(金)～10日(日)に、北海道大学体育館で第69回菱村杯北海道大学バレーボール選手権大会が開催され、女子バレーボール部は13年ぶりに30回目の優勝となりました。

春季リーグ戦を第2位で終え、昨年度結果ベスト4で今大会第3シードに臨みました。初戦は春季リーグ第3位の東海大、準決勝を第2シードの旭川大となるトーナメントとなり、非常に厳しい戦いが予想されました。

しかしながら、準決勝で第1シードの春季リーグ戦優勝の岩教大が敗れる波乱があり、決勝は第4シードの道都大学となり、無事勝利を収め優勝することが出来ました。

最優秀選手賞には畠山初音さん（教育学科3年）、ベスト7には白澤美南さん（スポーツ教育学科3年）、廣瀬未佳さん（スポーツ教育学科1年）が選出されました。

陸上部

# 陸上競技・北海道インカレ女子7年連続50回目総合優勝!!

6月1日(金)～3日(日)に札幌市厚別公園陸上競技場にて第70回北海道学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。今年は、女子が7年連続50回目の総合優勝を飾りました。男子は総合4位でした。そのうち種目優勝は男子4種目、女子6種目でした。応援に来ていただいた保護者、卒業生、教職員の皆さまに感謝申し上げます。

# 国際教育音楽祭「PMF2018」に参加！

創設者レナード・バーンスタインの生誕100周年に開催された今年の「パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）」。世界66か国の1190名がオーディションを受け、打楽器を演奏している石川慎也さん（教育学科4年）が見事に合格。「課題のフレーズを1万回ほど練習しました。練習は嘘をつかないことを実感しました」と合格の喜びを語る石川さんは、7月7日(土)から26日間、北海道、広島、東京での約40公演に参加しました。

# :Dドレメフェスティバル2018開催！

7月8日は裏参道祭りに合わせ、:Dドレメショップを出店。学生達が手作りしたアクセサリーやポーチなど、可愛い小物の販売を行いました。また、ポルトギャラリーAでは、ファッション総合学科1年生による作品展示が行われました。ポルトホールではファッションショー「:DOREME」を開催。企画・演出・モデルなど、一から作り上げた迫力のファッションショーを披露しました。

## アリオ札幌にてファッションショーを開催！

7月14日アリオ札幌でファッションショーを開催しました。ドレメフェスショーで発表した中から3パートを披露しました！

## 旭川で行われた夏フェスにドレメも参加しました！

8月2・3日旭川調理師専門学校が主催する夏フェスにドレメも参加しました。手作りのバッグや動物のぽんぽんブローチなどを販売。流行の透明クラッチバックが作れるワークショップも出店。多くのお客様で賑わいを見せていました！

## ライラック祭りに参加！

第60回さっぽろライラック祭りが5月16～27日まで開催されました。本学院生もライラック娘として参加し、リニューアルされた衣装でお祭りを盛り上げました。

## ACFアートステージ一次審査通過！

ACF主催のコンペティションにおいて、ファッション総合学科2年吉井琴美さん、佐々木花佳さんの2名のデザイン画が一次審査通過しました。制作された作品は、10月6日に行われる最終審査会で発表します。応援宜しくお願いします！

## 中学生対象の体験授業を開催！

7月26日中学生を対象とした進路探求オリエンテーリングを行いました。本学院では、オリジナルデザインTシャツ体験を行いました。染めの技術を使い、世界に1枚だけのTシャツを作成。参加してくれた中学生は楽しくデザインを体験していました！

## YKKファスニングアワード一次審査通過

応募総数約6千点の中から、ファッション総合学科2年三上亮雅さんの作品が見事一次審査を通過しました。

## :Dクリエーション開催のお知らせ

12月7・8日に本学院最大のイベント「:Dreation2018」が開催されます。学生が立ち上げたオリジナルブランドを発表。展示会・プレゼンテーション・ファッションショーで発表します。ファッションショーの企画や演出・モデルなど全てを学生が手掛けます。皆様ぜひお越しください！

:D 北海道ドレスメーカー学院
Hokkaido Dress Maker College
〒064-0801 札幌市中央区南1条西22丁目1番1号 6F
TEL.011-618-1939 FAX.011-618-1940（平日 9:00-17:00 土 9:00-13:00 日祝 定休）
koho@doreme.ac.jp http://www.doreme.ac.jp/

## 教育文化学部ニュース

芸術学科
芸学

### 卒業制作中間発表会を開催

芸術学科4年生による「卒業制作中間発表会」を8月1日（水）に開催しました。前身の芸術メディア学科から通算して、今年で第16回目の開催となる「卒業制作展（平成31年2月）」に向けて、制作中の作品や公演の内容や進捗状況、今後の予定などを芸術学科の5つの分野（美術・メディアデザイン・インテリア建築・服飾美術・舞台芸術）ごとに個人またはグループで発表しました。絵画・彫刻・インスタレーション、アクセサリー・模型・漫画・絵本・アニメーション・創作映像、建築設計・商業施設・住宅デザイン、フォーマルドレス、和柄衣装、創作ファッション、3種の舞台公演などなど、芸術学科ならではの多彩な作品に取り組む様子が報告されました。来年2月の卒業制作展とその前段に開催されるファッションショーや舞台公演をどうぞご期待ください。

## 教育文化学部ニュース

教育学科

### 96名が北海道・札幌市教員採用候補者一次選考を通過！

※既卒者含む

第2期生（現4年生）63名が北海道・札幌市教員採用候補者一次選考を通過しました。発表翌日から全学をあげた二次対策講座に参加し、個人面接や実技等に向けて追い込みをかけ、8月上旬の二次検査に挑みました。講座には既卒者も参加し、現役生は良い刺激を受けた様子です。道外の採用検査一次選考には東京都に1名、千葉県に3名が通過しました。総じて、現役生67名（小学校、特別支援学校、養護教諭、中高音楽）、既卒者29名、学科としては96名が一次選考通過という良好な結果でした。10月中旬の結果を心待ちにしているところです。（数値は8月10日現在）

また、8月から9月にかけては、第3期生の初等教育、幼児教育コースは小学校、幼稚園、保育園で実習に挑んでいます。養護教諭コースでは第4期生が札幌圏の病院で看護学臨床実習に挑んでいます。写真は各実習事前指導において代表学生が実習に向けた決意を表明している様子です。なお、音楽コース第2期生のPMFでの活躍は本号別記事で紹介します。

心理カウンセリング学科

### 施設見学実習報告会

2年次学生は対人援助に関わる専門機関を訪問し、そこで働く専門家の先生方にお話を伺う施設見学実習を毎年7月に行っています。今年度は、本学の卒業生たちも活躍している精神科病院（保健医療分野）・児童養護施設（福祉分野）・教育委員会（教育分野）・警察（司法・犯罪分野）の4か所を訪れ、7月24日（火）に報告会が開催されました。

本学科では、国家資格である精神保健福祉士・公認心理師の受験資格の取得が可能ですが、いずれの資格も専門家として働く際には多種多様な分野についての専門知識が必要です。

今回の施設見学実習を通して、専門機関や専門職の役割を学ぶと共に、自分たちの将来を考える貴重な機会になったと思います。

## 生涯スポーツ学部ニュース

スポーツ教育学科

### 地域貢献ボランティアへの参加

スポーツ教育学科では、地域におけるスポーツイベントのボランティアとして、多くの学生が地域貢献事業に参加しています。7月7日（土）は、札幌モエレ沼公園において「札幌30K」が開催され、スポーツ教育学科、健康福祉学科の学生、約25名がボランティアとして参加しました。当日は肌寒い天気の中、給水ポイントでの給水係、荷物預り所での参加者対応を行いました。学生ひとりひとりが自分自身の役割をきちんとこなし、イベントの円滑な進行に尽力しました。参加者に対しての声がけや細やかな配慮ができ、参加者の方々にとても喜ばれた有意義な実習となりました。学生は「するスポーツ」「みるスポーツ」「支えるスポーツ」と様々なスポーツとの関わりを理解することができました。

健康福祉学科

### 介護福祉士養成課程2年生がはじめての実習に行ってきました！

6月27日（水）～29日（金）の3日間、介護福祉士を目指す2年生がはじめての実習に行きました。この介護基礎実習は介護福祉士になるための第一歩です。施設を知り、実習指導者や職員らから教わり、そして実際に利用者様とコミュニケーションを図りながら、そこでの生活を理解していきます。初めはなかなかうまくコミュニケーションがとれずに苦労したようですが、緊張の中でも自分なりに挑戦し、そこから貴重な経験と学びを得てきました。

これらを報告集にまとめ、7月26日（木）に「介護基礎実習報告会」を開催しました。報告会も初めての経験でしたが、緊張しつつも質疑応答もしっかりできました。次は4週間の長期実習ですので、しっかり準備をしていくことを心に誓った学生達でした。

## 短期大学部ニュース

ライフデザイン学科

### 地域密着型教育インターンシップ成果報告会開催

本学科インターンシップは、①平成29年文科省インターンシップ登録制度に道内短大初登録され、②北海道みらい事業に承認され、次世代人財育成の重要な位置付けとなっています。インターンシップ生11名は、平成30年3月に、3週間のインターンシップを行いました。学生個々に掲げたインターンシップのテーマをもとに、学び得たこと、感じたことなど成果報告を行いました。当日は、学長や教員をはじめ、受け入れ先の方、高校の先生がご臨席いただき、大変有意義な報告会となりました。

今後は、この成果を残りの学生生活および来年度4月からスタートする新社会人生活に活かされることを期待しています。

こども学科

### 教育実習報告会 充実した実習の足跡を振り返って

こども学科では、7月10日（火）に「教育実習報告会」が行われました。1年生を招いて2年生が、5月中旬から行われた教育実習の成果の発表を行う会です。小学校や幼稚園の教育実習の成果が伝えられました。自己紹介の実演や研究授業の報告、実習日誌の努力、授業の指導案や設定保育の指導案の紹介、子どもや保育者、教師からの学び等、発表する内容が大変深く、前向きに実践していたことが伝わってくる会となりました。

1年生は、来年の実習への期待感が膨らみ、熱心に聞き入っていました。また2年生は、報告される内容からこれから始まる保育実習に向けて、新たなる目標が見えてきた有意義な時間となりました。

# 平成29年度 事業概要報告

## 【大学・短期大学部】

### 1．教育研究活動に関する事項

●学科ごとに3つのポリシーを見直し、教育課程の改善や円滑な展開、外部機関との連携を含む実践的な活動に努めました。また、GT制度の活用などによりきめ細やかな指導を通して3つのポリシーの具現化に努めました。その成果として、国家試験等の合格率の向上、高い就職率や進路決定率につながったものと考えています。

●大学の学部で先行してディプロマ・ポリシーの達成度、学習成果測定のアセスメントテストを実施し、現状を確認しました。教育支援の充実や改善など今後の対応に活用できるよう、その結果を学科へフィードバックしました。

●ボランティア活動の単位化に向けた検討には着手できませんでした。しかし、活動は地域連携センターと連携して各学科で、地域貢献も含めて積極的に展開しました。学生サークルを立ち上げての震災ボランティアも同窓会の協力を得て継続しています。単位化については、次年度の主要課題として改めて設定することとしました。

●アクティブラーニングの可視化については、一部昨年度から実施していたシラバスへの記載を制度化し、学生への周知・理解にも努めました。今後は、授業コンサルテーションやアセスメントテストにより、アクティブラーニングの導入による学習成果を確認、報告していきます。

●公認心理師については、大学院人間福祉学研究科臨床心理専攻及び教育文化学部心理カウンセリング学科を中心として、平成30年度からの対応に向けて教育内容の整備、教育課程の改訂、教員補充等の体制を整えました。

### 2．研究活動に関する事項

●私立大学等戦略的研究基盤整備事業の継続や受託研究、科学研究費の申請等を通して活発な研究活動が進められました。特に、科学研究費については平成27年度以降、申請研修も増加し平成29年度も23件の申請を行い10件の採択となりました。また、平成29年度はこれまで20％程度であった採択率が43％まで上昇しました。科学研究費総額も昨年度を300万円ほど上回る1千960万円となりました。

●ポルトでは市民講座10講座を開催し、多くの地域住民に研究成果の還元を行いました。スポルでは、私立大学等戦略的研究基盤整備事業（3年間）の最終年として学会発表（海外を含む）や論文投稿、関連機関への報告書の送付などにより、その研究成果の公表を行いました。

●研究センターでの大学院生の研究参加については、スポルを中心に取組み、センター研究の推進と大学院生の研究の促進が図られました。

●規程や計画に則った、全員参加の研究倫理研修会を実施し、倫理教育を行いました。また、公的研究費の内部監査も実施し、適正な研究活動、研究費執行にも努めました。

### 3．学生支援に関する事項

●教員採用検査では、過去最多の143名の合格者を出すことができ、そのうち現役学生が52名合格とこれまでの最多であった昨年度の32名を大きく更新しました。現役学生の2次検査合格率は32．6％で北海道・札幌市の全体合格率28．7％をはじめて上回りました。しかし、1次検査合格率は平均を下回っており、1次検査合格者・合格率の向上が課題となりました。介護福祉士、社会福祉士及び精神保健福祉士については、学科の対策講座等の努力により、合格率が全国平均を上回りました。介護福祉士は100％の合格率で5名全員合格、精神保健福祉士は15名中14名の合格、合格率93．3％で全国平均の62．9％を上回り、合格者数、合格率共に昨年度を大きく上回りました。社会福祉士でも合格率は53．8％と全国平均の30．2％を上回り、昨年度の39．3％から大きく向上しましたが、受験者数、合格者数が昨年度から半減しており、合格者数と同時に受験者数、合格者数の増加が課題となりました。臨床心理士については6名受験、3名合格という結果になりました。いずれも、今年度の結果を継続していくことが重要と捉えています。

●支援システム・支援体制の整備が行われ、ワークショップの開催やリーフレット発行などにより、利用件数が昨年度より増加しており、支援室の定着が図られてきています。また、障がい学生支援ガイドラインが策定され、全教職員に配布されました。

●就職率は大学で100％、短大部で97．4％と高い結果となりました。今後、卒業生に対する就職・進路決定の割合を更に高められるよう、就業力養成科目の質的充実に努めていきます。

### 4．社会交流・地域貢献に関する事項

●三者連携で推進する「地域まるごと元気アッププログラム」や各市町村との包括連携協定に基づく体力測定会、各種運動教室、介護予防や多世代交流、子育て支援や障がい者福祉支援など、本学が有する特色ある学びの分野を活かした地域貢献活動を、道内の多くの地域で全学部の教員・学生が参加しました。ボランティア活動は、地域連携センターが窓口となり学生への周知等、地域から多く寄せられる要請に対応しました。

●「ふるさと江別塾」や「道民カレッジ」への参画のほか、江別シティプロモート推進プロジェクト、えべつ未来づくり学生コンペティション、高校つか未来づくり学生による出張講義に加え、江別版大学出前講座にも参加し、地域貢献活動を展開しました。更に、生涯学習機関としての教養講座、実力講座の開講、学部ごとの公開講座の開催なども計画的に実施しました。高大連携については、新たに2校と連携協定を締結し、連携校は14校となりました。本学への訪問の受け入れや校長先生や担当の先生方との情報交換会を実施しました。また、北海道と包括連携協定を締結し、地域貢献活動を展開する中、「ほっかいどう未来チャレンジ」では、本学の教員1名と卒業生1名が採択され、海外での研修を行うことができました。平成31年度から「地域づくり・まちづくり」を次年度以降の重点項目としており、先行してこども食堂の取り組みを試行しました。

### 5．学生確保に関する事項

●大学案内に加えて学科独自の広報ツールも作成し、アドミッションセンターと連携を図りながら各学科の特色を発信しました。また、学科では地域のイベントや出張講義にも参加し、地域貢献に加えて学科のアピールも行うことができました。高校訪問による本学の実績等の情報提供、テレビCMによる告知も行いました。

●オープンキャンパスは開催回数を増加したことにより参加者数は増加しました。ただし、スポーツ教育学科の参加者増加がその大きな要因で、他学科では微減という結果でした。

●入学者選抜では、出願者総数は増加しましたが、平成30年度の入学者数は平成29年度入学者を15名下回る597名（入学定員630名）となりました。大学全体では入学定員を充足しましたが、スポーツ教育学科と教育学科の2学科のみで、他の3学科及び短大部の2学科は入学定員を充足することができませんでした。A日程、センターA方式を主として試験入学での出願者数が増加しましたが、専願制度の推薦入学、AO入学での出願が減少しました。出願者数の増加も大きな要因はスポーツ教育学科での増加でした。入学者選抜方法は、アドミッション・ポリシーに示す能力や意欲を判定できるようAO入学（1期～5期）、推薦入学、試験入学（A日程・B日程）、センター試験利用入学（A方式・B方式・C方式）と多くの制度と機会を設定し、適正に実施しました。新たな入試制度については、他大学の取組状況等の情報を収集しながら継続して検討を継続しています。

### 6．管理運営等に関する事項

●事務局の再編案は平成31年度を目途に検討しており、再編案を勘案して新規採用を含めた人事を進めています。

●Webシステムによる診断に変更したことでストレスチェックの実施率は向上しました。ストレスチェックや健康診断に加え、健康管理の面から月1回開催している安全衛生委員会で時間外勤務の状況等を確認しています。

●毎年の点検・評価は着実に実施し、年次報告書としてまとめ公表しました。また、昨年度の短大部に続き、今年度は大学が認証評価を受審しました。適正に自己点検・評価を実施し、書面調査（6月～7月）及び訪問調査（10月）を経て平成30年3月に「適合」の判定を得ました。

●「平成26年度教育改革」検証委員会を設置し、検証を行い平成29年9月までに報告書を取りまとめ、平成29年10月に常勤理事会に答申しました。平成30年度には、この答申をもとに、平成32年度以降の具体的対策を検討する体制作りを予定しています。これに伴せて大学院の再編も検討することとしています。

### 7．施設設備整備に関する事項

●消防設備の整備、避難階段の更新など、学生の安全・安心を優先した整備を実施しました。また、第1体育館の天井照明のLED化や体育館の補修、グラウンド整備や教室のAV機器の更新・整備、ピアノの一部入れ替えなど、教育環境の整備も順次進めています。校舎・キャンパス整備のマスタープランの検討はできてはいませんが、施設管理課と職員常駐の業務委託先が連携しながら、総合的な改修、整備を検討しています。

●耐震設計・改修工事については、平成30年度内の工事完了に向け、設計業者を選定して第2期耐震改修工事計画を策定し、進めています。

### 8．財務の改善等に関する事項

●予算執行に当たっては節減に努めましたが、PC教室の機器の更新、学習成果測定のためのアセスメントテストの導入、アスベスト撤去や施設設備の老朽化に伴う補修等、補正を要する計画外の事業が発生しました。資産運用については、都度、複数の金融機関の中から利回りの良い機関を選定して安全性を重視した運用を行いました。近年の低金利から、運用益は少ない状況が続いています。

●学部学科の収支分析は行えず、次年度の課題としました。寄付金募集もWebサイトや学園広報誌での依頼にとどまり、寄付総額は960．000円でした。

## 【北海道ドレスメーカー学院】

●職業実践専門課程認定申請を計画通り行い、平成30年2月に認定を受けました。

●カルチャースクールは支出超過の状況が続き、平成30年度以降は廃止に向けて検討することとしました。

●これまで同様、様々な広報を実施してきましたが、直接結果に結びつくまでには至らず、平成30年度の入学者は前年並みの49名（ファッション総合学科28名、専攻科10名、夜間科11名）となりました。

●平成30年度の予算編成に当たって運営体制や業務の見直しを含めて査定を行い、支出の節減、収支改善に努めましたが、平成29年度収支の大幅な改善は図ることができませんでした。

●平成29年8月から議論を重ねてきたドレメ改革検討部会の報告を平成30年3月に受け、平成30年度から具体的な改善方策について検討を進めることとなりました。

以上

詳細につきましてはホームページでご覧下さい。
http://www.hokusho-u.ac.jp

## 学校法人の概要

設置学校・学部・学科等の名称及び学生・生徒数　平成30年5月1日現在（単位：人）

| 学校名・学部・学科名等 | 入学定員 | 入学者数 | 編入定員 | 卒業者数 | 収容定員 | 在学生数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 北翔大学大学院 | 20 | 12 | — | 13 | 40 | 34 |
| 人間福祉学研究科 | 8 | 1 | — | 5 | 16 | 7 |
| 生涯学習学研究科 | 6 | 4 | — | 2 | 12 | 11 |
| 生涯スポーツ学研究科 | 6 | 7 | — | 6 | 12 | 16 |
| 北翔大学 | 440 | 456 | 35 | 358 | 1,830 | 1,786 |
| 生涯スポーツ学部 | 220 | 262 | 15 | 200 | 910 | 950 |
| スポーツ教育学科 | 160 | 220 | 10 | 168 | 660 | 795 |
| 健康福祉学科 | 60 | 42 | 5 | 32 | 250 | 155 |
| 教育文化学部 | 220 | 194 | 20 | 153 | 920 | 815 |
| 教育学科 | 120 | 123 | 10 | 103 | 500 | 516 |
| 芸術学科 | 50 | 30 | 5 | 21 | 210 | 129 |
| 心理カウンセリング学科 | 50 | 41 | 5 | 29 | 210 | 170 |
| 人間福祉学部 | — | — | — | 2 | — | 12 |
| 地域福祉学科 | — | — | — | 1 | — | 6 |
| 福祉心理学科 | — | — | — | 1 | — | 6 |
| 生涯学習システム学部 | — | — | — | 3 | — | 9 |
| 芸術メディア学科 | — | — | — | 3 | — | 7 |
| 学習コーチング学科 | — | — | — | 0 | — | 2 |
| 北翔大学短期大学部 | 250 | 141 | — | 126 | 440 | 322 |
| ライフデザイン学科 | 50 | 21 | — | 16 | 100 | 56 |
| こども学科 | 140 | 120 | — | 110 | 280 | 266 |
| 専攻科 | 60 | — | — | — | 60 | — |
| 北海道ドレスメーカー学院 | 140 | 49 | — | 39 | 200 | 80 |
| 法人合計 | 850 | 658 | 35 | 536 | 2,510 | 2,222 |

役員数　平成30年6月1日現在（単位：人）

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|---|---|---|---|
| 理事 | 6 | 4 | 10 |
| 監事 | — | 2 | 2 |

教員・職員数　平成30年5月1日現在（単位：人）

| | 法人部門 | 北翔大学 生涯スポーツ学部 | 北翔大学 教育文化学部 | 北翔大学 人間福祉学部 | 北翔大学 生涯学習システム学部 | 北翔大学 計 | 北翔大学短期大学部 ライフデザイン学科 | 北翔大学短期大学部 こども学科 | 北翔大学短期大学部 計 | 北海道ドレスメーカー学院 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校長 | — | — | 1 | — | — | 1 | — | — | — | 1 | 2 |
| 副学校長 | — | — | 1 | — | — | 1 | — | — | — | 2 | 3 |
| 教授（論） | — | 25 | 25 | — | — | 50 | 3 | 6 | 9 | 4 | 63 |
| 准教授 | — | 9 | 13 | — | — | 22 | 2 | 4 | 6 | — | 28 |
| 講師 | — | 7 | 7 | — | — | 14 | 1 | 4 | 5 | — | 19 |
| 助手 | — | — | — | 1 | — | 1 | — | — | — | — | 1 |
| 本務教員計 | — | 41 | 47 | 1 | — | 89 | 6 | 14 | 20 | 7 | 116 |
| 兼任講師 | — | 114 | 129 | — | — | 243 | 37 | 25 | 62 | 29 | 334 |
| 本務職員 | 4 | 33 | 29 | 1 | 1 | 68 | 2 | 9 | 11 | 2 | 81 |

## 平成29年度決算概要　学校会計と企業会計の相違点

学校法人とは、学校教育法及び私立学校法の定めにより、私立学校の設置を目的に設置された法人です。学校法人は、設置学校を運営し教育・研究活動を行うことを目的とする公共性の高い法人であり、営利を目的とする企業とは異なります。

企業会計は収益と費用からその経営成績を知ることにありますが、学校法人会計は計算書類によって財務の面から教育・研究活動が円滑に遂行されたか否かを知ることにあります。公共性の高い学校法人が、教育・研究活動を継続して行い永続的に存続していくためには、財務状況を正確に把握し、健全な経営をしなければなりません。そのため学校法人の会計処理については、私立学校振興助成法において、国または地方公共団体から補助金の交付を受ける学校法人は「学校法人会計基準」に従い会計処理を行い、計算書類を作成し、公認会計士または監査法人の監査報告書を添付して所轄庁（文部科学省）へ届け出なければならないことになっています。学校法人会計基準では、「資金収支計算書」「活動区分資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」の各計算書類の作成が義務づけられています。

### 資金収支計算書　（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

資金収支計算書とは、その年度の法人の諸活動に対応する収入及び支出の全て、並びにその年度における支払資金の流れを明らかにするためのものです。そのため、次年度の収入となる前受金収入や施設設備に関する支出及び借入金返済支出等、資産・負債に係るものについても計上されます。

平成29年度の資金収支は予算額と比して、収入の部では学生生徒納付金収入が3千7百万円増加した他はほぼ予算通りの収入があり、支出の部では教育研究費支出で3千7百万円、施設関係支出で2千4百万円それぞれ減少するなどで、翌年度繰越支払資金が前年度より2億5千7百万円増加しました。

■収入の部　（単位：千円）

| 科目 | 予算 | 決算 | 差異 |
|---|---|---|---|
| 学生生徒等納付金収入 | 2,384,130 | 2,421,483 | △ 37,353 |
| 手数料収入 | 22,240 | 23,022 | △ 782 |
| 寄付金収入 | 0 | 910 | △ 910 |
| 補助金収入 | 315,000 | 312,480 | 2,520 |
| 資産売却収入 | 0 | 52 | △ 52 |
| 付随事業等収入 | 44,400 | 44,300 | 100 |
| 受取利息等収入 | 7,100 | 7,094 | 6 |
| 雑収入 | 63,170 | 64,156 | △ 986 |
| 借入金等収入 | 0 | 0 | 0 |
| 前受金収入 | 673,575 | 660,731 | 12,844 |
| その他の収入 | 179,383 | 177,715 | 1,668 |
| 資金収入調整勘定 | △ 737,977 | △ 735,063 | △ 2,914 |
| 前年度繰越支払資金 | 3,865,318 | 3,865,318 | |
| 収入の部合計 | 6,816,339 | 6,842,198 | △ 25,859 |

■支出の部　（単位：千円）

| 科目 | 予算 | 決算 | 差異 |
|---|---|---|---|
| 人件費支出 | 1,623,842 | 1,602,847 | 20,995 |
| 教育研究用経費支出 | 700,640 | 663,601 | 37,039 |
| 管理経費支出 | 212,690 | 204,802 | 7,888 |
| 借入金等利息支出 | 12,090 | 12,090 | 0 |
| 借入金等返済支出 | 129,630 | 129,630 | 0 |
| 施設関係支出 | 74,348 | 50,228 | 24,120 |
| 設備関係支出 | 42,200 | 42,115 | 85 |
| 資産運用支出 | 0 | 0 | 0 |
| その他の支出 | 92,440 | 90,776 | 1,664 |
| 〔予備費〕 | (10,000) 1,000 | | 1,000 |
| 資金支出調整勘定 | △ 54,261 | △ 76,104 | 21,843 |
| 翌年度繰越支払資金 | 3,981,720 | 4,122,214 | △140,494 |
| 支出の部合計 | 6,816,339 | 6,842,198 | △ 25,859 |

### 貸借対照表　（平成30年3月31日）

貸借対照表とは、決算時（年度末）における資産・負債・基本金及び収支差額を把握するもので、法人の財政状態を表しています。

平成29年度末の資産は、前年度に比して現預金等が2億5千4百万円増加した一方、建物などの減価償却等で2億2千万円減少となったこと等により8千1百万円の減少となりました。負債は、長期借入金の返済などにより1億1千3百万円の減少となりました。総資産から総負債を差し引いた正味財産は142億3千6百万円となり、前年度に比べ3千2百万円の増加となりました。

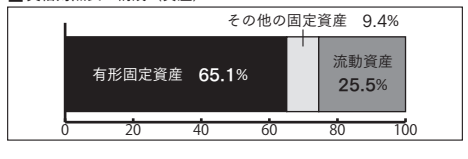
■資産の部　（単位：千円）

| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
|---|---|---|---|
| 固定資産 | 12,219,370 | 12,473,574 | △ 254,204 |
| 有形固定資産 | 10,684,492 | 10,927,517 | △ 243,025 |
| 特定資産 | 1,015,000 | 1,015,000 | 0 |
| その他の固定資産 | 519,878 | 531,057 | △ 11,179 |
| 流動資産 | 4,189,680 | 4,017,069 | 172,611 |
| 資産の部合計 | 16,409,050 | 16,490,643 | △ 81,593 |

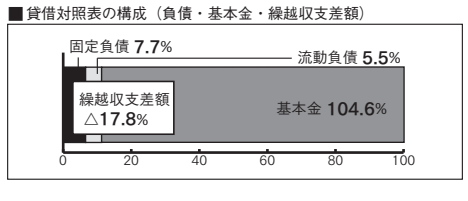
■負債・純資産の部　（単位：千円）

| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
|---|---|---|---|
| 固定負債 | 1,271,444 | 1,396,648 | △ 125,204 |
| 流動負債 | 900,914 | 889,404 | 11,510 |
| 負債の部合計 | 2,172,358 | 2,286,052 | △113,694 |
| 基本金 | 17,157,848 | 17,015,863 | 141,985 |
| 繰越収支差額 | △ 2,921,156 | △ 2,811,272 | △ 109,884 |
| 純資産の部合計 | 14,236,692 | 14,204,591 | 32,101 |
| 負債及び純資産の部合計 | 16,409,050 | 16,490,643 | △ 81,593 |

■貸借対照表の構成（資産）




■貸借対照表の構成（負債・基本金・繰越収支差額）




### 事業活動収支計算書　（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

事業活動収支計算書とは、本業である「教育活動」、財務活動に関する「教育活動外」、資産の売却及び処分に関する「特別」の三つの活動区分ごとの収支の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにし経営状況を表すもので、企業会計の損益計算書と類似しています。

平成29年度の事業活動収支は、経常収支差額と特別収支差額を合計した基本金組入前当年度収支差額は、3千2百万円となり、予算額よりも1億1千7百万円黒字額が増額しました。基本金組入後の当年度収支差額は、1億1千万円の支出超過となりましたが、予算額よりも1億5千5百万円支出超過額が減少し、翌年度繰越収支差額も支出超過額が減少しました。

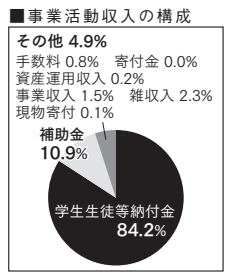
■事業活動収入の部　（単位：千円）

| 科目 | 予算 | 決算 | 差異 |
|---|---|---|---|
| 教育活動　学納金 | 2,384,130 | 2,421,483 | △ 37,353 |
| 手数料 | 22,240 | 23,022 | △ 782 |
| 寄付金 | 0 | 942 | △ 942 |
| 経常費等補助金 | 315,000 | 312,480 | 2,520 |
| 付随事業収入 | 44,400 | 44,300 | 100 |
| 雑収入 | 63,170 | 64,156 | △ 986 |
| 教育活動計 | 2,828,940 | 2,866,383 | △ 37,443 |
| 教育活動収支差額 | △ 79,040 | 34,138 | △ 113,178 |
| 教育活動外 受取利息 | 7,100 | 6,911 | 189 |
| その他 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外計 | 7,100 | 6,911 | 189 |
| 教育活動外収支差額 | △ 4,990 | △ 5,179 | 189 |
| 経常収支差額 | △ 84,030 | 28,959 | △ 112,989 |
| 特別　資産売却差額 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 3,556 | △ 3,556 |
| 特別計 | 0 | 3,556 | △ 3,556 |
| 特別収支差額 | △ 500 | 3,142 | △ 3,642 |
| 〔予備費〕 | (10,000) 1,000 | | 1,000 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | △ 85,530 | 32,101 | △ 117,631 |
| 基本金組入額合計 | △ 179,530 | △ 141,985 | △ 37,545 |
| 当年度収支差額 | △ 265,060 | △ 109,884 | △ 155,176 |
| 前年度繰越収支差額 | △ 2,811,272 | △ 2,811,272 | 0 |
| 基本金取崩額 | 0 | 0 | 0 |
| 翌年度繰越収支差額 | △ 3,076,332 | △ 2,921,156 | △ 155,176 |
| （参考） | | | |
| 事業活動収入計 | 2,836,040 | 2,876,851 | △ 40,811 |
| 事業活動支出計 | 2,921,570 | 2,844,750 | 76,820 |

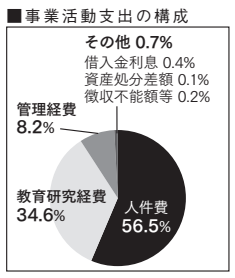
■事業活動支出の部　（単位：千円）

| 科目 | 予算 | 決算 | 差異 |
|---|---|---|---|
| 教育活動　人件費 | 1,623,849 | 1,608,664 | 15,185 |
| 教育研究経費 | 1,036,730 | 984,873 | 51,857 |
| 管理経費 | 239,910 | 232,382 | 7,528 |
| 徴収不能額等 | 7,491 | 6,327 | 1,164 |
| 教育活動計 | 2,907,980 | 2,832,246 | 75,734 |
| 教育活動外　借入金利息 | 12,090 | 12,090 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外計 | 12,090 | 12,090 | 0 |
| 特別　資産処分差額 | 500 | 414 | 86 |
| その他 | 0 | 0 | 0 |
| 特別計 | 500 | 414 | 86 |

■事業活動収入の構成




■事業活動支出の構成




## 学校法人計算書類の主な科目説明

■資金収支・事業活動収支計算書に共通の科目

| 科目 | 説明 |
|---|---|
| 学生生徒等納付金 | 授業料・施設整備費・実験実習料・入学金など |
| 手数料 | 入学検定料や各種証明書発行手数料など |
| 補助金 | 国や地方公共団体などから交付される補助金 |
| 付随事業・収益事業収入 | 各種資格取得の講座受講料など |
| 雑収入 | 上記の各収入に含まれない収入 |
| 人件費 | 専任教職員・非常勤講師・契約職員などに支給する給与や所定福利費・退職財団掛金など |
| 教育研究経費 | 教育研究活動や学生の学習支援・課外活動に支出する経費 |
| 管理経費 | 総務・人事・経理業務や学生募集活動など、教育研究活動以外に支出する経費 |
| 予備費 | 予算編成時において予期しない支出に対処するもの |

■資金収支計算書のみの科目

| 科目 | 説明 |
|---|---|
| 前受金収入 | 翌年度分の授業料・施設整備費・実験実習料などが当年度に納付された収入 |
| 施設関係支出 | 建物・構築物・建設仮勘定など |
| 設備関係支出 | 教育研究用機器備品・その他の機器備品・図書・車両など |

■事業活動収支計算書のみの科目

| 科目 | 説明 |
|---|---|
| 徴収不能額等 | 当年度に徴収するべき収入が、徴収不能と判断された金額 |
| 基本金組入額 | 学校法人が計画に基づき、教育研究の維持・充実を継続的に行うために保持する金額 |

■貸借対照表のみの科目

| 科目 | 説明 |
|---|---|
| 繰越収支差額 | 資産の部合計から負債の部合計と基本金合計を控除した金額 |

# My Life My Story 5

ひとの数だけ物語がある。

北翔大学 教育文化学部 学部長
教育学科 教授
佐々木 邦子
Kuniko Sasaki

北海道出身
1996年　北海道大学大学院経済学研究科修士課程修了
　　学位　修士（経営学）
2000年　本学生涯学習システム学部に専任講師として着任
2008年　北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学

・所属学会
日本教育社会学会
日本労務学会
日本生涯教育学会
日本ビジネス実務学会
北海道社会学会

## 20年目の北翔生活

私は1999年に非常勤講師として本学で働きはじめました。翌年の改組によって生涯学習システム学部が開設され、同学部の芸術メディア学科の専任講師に。この年から本学は男女共学に変わり、現在の姿に近い雰囲気となりました。2006年には生涯学習システム学部に加わった学習コーチング学科へ移籍。そうして2014年の改組により、教育文化学部・教育学科の一員となりました。

時代に合わせて組織を進化させてきた本学ですが、学生のことをよく考える教育熱心な教員が多いことや、学生たちの元気で明るい雰囲気というのは、変わらない伝統だと感じています。

## 本学就任までの歩み

大学で商学を専攻した私は、高校の商業科の教員として9年間を過ごしました。そのなかでさらに学びを深めたいという思いが強まり、大学や専門学校の非常勤講師をしながら、研究生というかたちで大学での勉強を再開しました。そんなある日、北大が社会人大学院生の第一期生を募集するという小さな新聞記事を見つけたのです。研究生として勉強をしていた先生のご指導により、おかげさまで、経済学研究科の修士課程で学ぶことができました。経営学と教育学が重なりあう領域です。具体的には、女性や若者における労働と教育の関わりについて。それが現在の研究テーマにつながっています。

修了後は非常勤講師の仕事に戻ったのですが、その最後の年が冒頭にお話した1999年ということになります。実は本学赴任後に、北大大学院教育学研究科の博士課程にも進んだのですが、仕事との両立が難しかったことや病気をしたこともあり、そちらは単位取得退学で終えています。

## ゼミ研修旅行

現在は「生徒指導論」や「教育経営学」、生涯学習関連の科目を担当しています。また、私のゼミには初等教育コースの学生が所属し、その全員が小学校教員をめざしています。

ゼミでは輪読を行い、各自が担当箇所をレジュメにまとめて討論をするのが基本。書籍をしっかり読み取る力、文章を書く力、発表をする力、検討する力を総合的に身につけてほしいと願っています。

もちろん机上の勉強だけではなく、学外に出向くこともあります。なかでも大きなものは、宿泊を伴う研修旅行です。毎年一度、道内の小学校や博物館など教育関連の施設を訪れています。昨年度は稚内の小学校にお世話になりました。1・2年生、3・4年生、5・6年生と2学年が同じ教室で授業を実施する「複式授業」を見学させていただきました。そういった教育現場の実際を間近に見ることで、学生には将来への意識を高めてもらえればと思っています。

今年度は、学校教育法の改正により2016年から始まった義務教育学校法人を訪問させていただく予定です。

## 多彩なゼミ活動

ゼミでは毎年、裁判の傍聴にも行きます。薬物や暴力など、さまざまな刑事裁判を傍聴してきました。自分が指導する児童を将来的に被告席に立たせたくないという気持ちで教育にあたってほしいため、こうした機会を設けています。文化的な面では、北海道立近代美術館を毎年訪れます。児童の情操教育のため、教員自らが多様な文化に触れることが大切だと考えているからです。

3・4年生が一緒に活動をするのも、将来、教員となったときに先輩・後輩として助けあうことができるように、学生のうちから人間関係の築き方を学んでほしいので、そのようにゼミを運営しています。それは、同じことをして同じ物を食すことになりますので、生徒指導でいう「接点」の意味を持ちます。また、教員をめざす学生ですから、ものを大事にする、人の心を大切にするという基本を身につけられるような場づくりに努力をしてきました。

## 社会への架け橋に

私は「学生と社会のリエゾンであれ」という使命感をもって、教員生活を送ってきました。リエゾンとはフランス語で「架け橋」という意味です。高校から進学してきた学生が大半ですので、学生のうちに社会とはどのような場であるかを少しでも伝えておきたいという気持ちがあります。これは、私の研究テーマである「労働と教育の関わり」に深くつながっている部分でもあります。

学生が学生生活を通じてさまざまな体験をしながら視野を広げ、自分の選んだ道に進んでくれることが、教員として一番の喜びです。振り返ると、社会人大学院生として身をもって生涯学習（リカレント学習）をしたことが人生の転機となりました。その頃苦しかった中で、ご指導をいただいた先生方、仲間たちなど多くの皆さんに助けられたのです。そのように受けた恩を今度は学生や学校に還元することも教員としての大切な役割だと考えております。今後も引き続きこのような思いで教育・研究を続けてまいります。

---

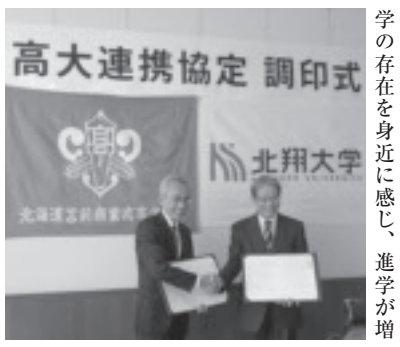
高大連携ニュース新着情報

## 北海道苫前商業高等学校と高大連携協定調印式を執り行いました

3月19日(月)に、本学（山谷敬三郎学長）と北海道苫前商業高等学校（佐藤雅人校長）との高大連携協定調印式が執り行われました。

本学と道内高校の協定は14校目となります。

調印式終了後に、山谷学長は、「常々、地域に高校が存在しているということは、地域の活性化などの為には、非常に大切なことであると考えているので、厳しい経営を迫られている地方の高校の存続のために、出来る限りの応援をしたい。この協定を契機に生徒が大学の存在を身近に感じ、進学が増えて、将来地域を支える人材となって戻ってくれると嬉しい。」と語られました。




佐藤校長は、「大学の先生や学生と触れ合う機会の乏しい地方の高校生に、この北翔大学との交流により、大学を体験する機会を与え、進路選択の幅を拡げる機会となることを期待している。」と述べられました。

高大接続が課題とされる昨今、一人ひとりの学力、資質を高めるべく教育のあり方について双方で検討しながら、連携を深めて参ります。

## 高大連携協定高校との情報交換会が開催

2月23日(金)に、高大連携協定高校との情報交換会が開催されました。

高校からは、連携活動状況の報告が行われ、出前講義後の学生部活動や大学案内の保護者への配付による進学者の増加など、連携の成果にまつわる嬉しい声が聞かれました。

本学からは、各学部から教育の特徴や現況について説明を行いました。教員採用検査の躍進した合格者数や、オリンピックにおける本学関係者の活躍、新たな福祉法人との連携による給付型奨学金制度の発足などを報告しました。協定校からの本学への熱い期待を実感できた有意義な情報交換会となりました。

## 夏のオープンキャンパス開催

8月4日(土)・5日(日)にオープンキャンパスを開催しました。

北海道内・外から多くの高校生、保護者の方を迎え、学科相談、学食体験、キャンパスツアー、体験授業、入試対策講座など多彩なプログラムを実施。在学生を中心に本学の魅力を存分に伝えることができました。次回は12月2日(日)にオープンキャンパスを開催いたします。ご家族や身のまわりで本学に興味をお持ちの方へご参加下さるようお声掛けをお願い致します。在学生スタッフ・教職員一同、ご参加を心よりお待ちしております。

在学生スタッフ：
TEAM PAL:C（チームパルシー）

## 2018年10月～2019年3月［共通行事予定］

| | | |
|---|---|---|
| 2018 10月 | 20日（土） | 大学院第１期入学試験公開日 |
| | 21日（日） | 大学院第１期入学試験（７号棟・ＰＡＬ立入禁止） |
| 11月 | 17日（土） | 推薦入学、社会人・帰国子女特別選抜入学試験　学内公開日（全構内立入禁止） |
| | 18日（日） | 推薦入学、社会人・帰国子女特別選抜入学試験（全構内立入禁止） |
| | 23日（金） | 通常講義日（勤労感謝の日） |
| | 30日（金） | 第２期編入学試験公開日 |
| 12月 | １日（土） | 第２期編入学試験（７号棟・ＰＡＬ立入禁止） |
| | ２日（日） | オープンキャンパス |
| | 29日（土） | 学校閉鎖（～１/３まで）　冬季休業日（12/29～１/６） |
| 2019 1月 | 15日（火） | 指定休日　（11/23の振替休日） |
| | 19日（土） | 大学入試センター試験　（全構内立入禁止） |
| | 20日（日） | 大学入試センター試験　（全構内立入禁止） |
| 2月 | ２日（土） | Ａ日程試験入学、第３期編入学試験、大学院第２期入学試験（生涯学習学研究科、生涯スポーツ学研究科）学内公開日（全構内立入禁止） |
| | ３日（日） | Ａ日程試験入学、第３期編入学試験、大学院第２期入学試験（生涯学習学研究科、生涯スポーツ学研究科）（全構内立入禁止） |
| 3月 | ２日（土） | Ｂ日程試験入学、第４期編入学試験、大学院第２期入学試験（人間福祉学研究科）学内公開日（全構内立入禁止） |
| | ３日（日） | Ｂ日程試験入学、第４期編入学試験、大学院第２期入学試験（人間福祉学研究科）（全構内立入禁止） |
| | 10日（日） | オープンキャンパス |
| | 19日（火） | 学位記授与式 |

## 北翔大学 寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により修学の継続が困難な学生が増加しており、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。

ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。

ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

［寄付金 募集期間］
平成３１年５月まで
（常時受入れさせていただきます）

［お問い合わせ］
総務部総務課まで
詳細は本学ホームページ
http://www.hokusho-u.ac.jp
をご覧ください。